

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200077		
法人名	合同会社 聖恵会		
事業所名	恵みハウス		
所在地	岐阜県関市大平台14-5		
自己評価作成日	平成24年10月11日	評価結果市町村受理日	平成25年 1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvCd=2190200077-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成24年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣人愛を主眼に置き、一人一人の家庭の事情や思い、願いを理解することに努め、愛と思いやりのある温かい介護を目指しております。地域密着の介護施設として、運営推進委員会にいつもご出席いただける自治会長さんや民生委員さんや学識経験者の皆さまから助言を頂いたり、相談に乗って頂いたりと積極的に公民館活動、食事会カラオケ大会への参加をさせて頂いています。また毎年地域中学生の体験学習を受け入れており今年も10名もの学生が来てくれました。それに運営推進委員会で紹介していただいた幼稚園にもお願いに上がり、夏には35名もの園児さんが遊びに来てくれ、利用者様とのふれあいで肩たたきや手遊びなどで楽しく過ごし、お帰りには清流国体の みなもチャンのペンダントにメッセージを書いてプレゼントしてくれました。皆様が喜んで下さるよう工夫していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から3年目を迎え、利用者の平均介護度は3.8と、かなりの重度化傾向を示している。しかし、外国籍の職員複数名を含む職員のチームワークは良く、確かなケアで利用者・家族の信頼を勝ち得ている。「隣人愛」が根底を流れる法人の理念が、全職員に理解されていることの証であろう。運営母体であるクリニックが隣接しており、提携医としていつでも迅速に対応できる環境である。本人、家族だけでなく、職員にとっても大きな安心感となっている。併設されている小規模多機能事業所と相互に連携を図っており、ホーム利用者の3名は小規模の機械浴槽を利用して入浴支援を受けている。地域イベントに合同で参加したり、「便り」を共同で発行したり、運営推進会議や防災訓練を合同で開催したりと、連携が有効に機能している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は時々会話にも登場し、玄関、応接室、ミーティング室など至る所にかかげ管理者と職員が共有している。	理念の根底を流れるのは「隣人愛」の思想であり、ここに集う全ての人が愛に包まれた生活を楽しむよう支援している。外国籍の女性職員が生き活きと働く様にその具現が見えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の職場体験、幼稚園の来訪、ケアセンターの利用者様が公民センターのカラオケに参加の折、応援に参加されたり、自治会の防災訓練に参加している。	ホームは2地区の町内会に隣接することから、両方の町内会行事に参加している。祭りイベントや芸能大会では、利用者がカラオケ大会に出場して自慢ののどを披露した。幼稚園との交流も軌道に乗ってきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員、利用者の家族、利用者が通っている教会の方たちに認知症の方に対しての対応や病気の理解について話させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近では運営推進委員の方が趣味の絵手紙を沢山掲示させていただき事になっており、その前にはさぎ草の鉢を提供して下さったりと地域の方に関心を持っていただいている。	隣接の小規模多機能事業所と合同で、毎奇数月に運営推進会議を開催しており、活動報告や活発な意見交換が行われている。自治会長からは、地域イベントへの招待の話が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括や市役所で教えて頂くことが多いし、パンフレットなど下さっている。	運営推進会議に市の担当者の参加があることから、行政にはホームの現状が伝わっている。制度上の変更点や疑問点は、すぐに市の担当者に相談して適切な回答を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現場において何が身体拘束で何がそうではないかを話しあっている。独り対応は施錠している。	ホームの玄関は事務室から離れたところにあるため、職員の目が届きにくい。入浴支援時等、職員の手が足りない時には、玄関を施錠することがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に反することであり利用者様との信頼関係に重きをおいている。また職員がストレスをためないように休憩を調節している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あらゆる研修を通して職員間でこれから必要な制度であることを話しあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、質問にも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会で発言してもらったり、来所の折などの聞かせてもらっている。	家族(キーパーソン)が遠隔地(九州、大阪、埼玉等)に住んでいる利用者があるが、都合をつけての家族来訪がある。管理者、職員共に、家族の意見を吸い上げようとの意識は高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや現場でまた毎月のリーダー一会などで聞かせてもらっている。周知徹底は日本の文化が分からない面もあり苦慮している。	外国籍の職員が複数名いるが、意思の疎通は図られており、支援の現場での支障は出ていない。言葉の問題は皆無であるが、記録面(日本語、漢字)での課題が出ている。	今後も外国籍の職員が増える予定があることから、記録の記述方法を変更する必要がある。職員が知恵を出し合っの改善策に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準を達成することを旨とし、人員配置を手厚くし労働環境の改善をはかっている。OFJTで教育の場を与えたり、有給を取る機会を積極的に与えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場で一緒に介護にあたり、工夫したり、マスコミから調べたりアイデアを出しながら仕事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者といつも交流しているわけではないが、居宅のケアマネの会に入れてもらって情報を得たり勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用される前からスタッフ間で情報を共有し、安心して利用していただけるよう細かい点までチェックしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	小さなことでも話題に捉えなるべくコンタクトをとるようにしてアセスメントの一助にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	うちのサービスでどこまで可能かできない点はどういうことかを整理して本人や利用者様に伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新聞たたみや洗濯ものたたみ、テーブルふきなど男女を問わずしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診等で来所された折などに昔のご本人の様子興味などを聞いて回想法に役立てている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節の変わり目など衣類を持ってきていただいたりしたときなどに昔の写真やかばんなど居室に置いている。	以前、小規模多機能事業所を利用していた利用者は目が不自由であることから、グループホーム利用となってからも、生活(トイレの場所等)が馴染んだ小規模多機能事業所に通っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食欲の衰えた利用者様に他の皆さままで応援して口に入れて頂いて元気になられた方もある。孤立されないように他の方とつないで活性化できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	わけがあって特養に行かれた方もあり、時々身うちの方から様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	そのかたの認知能力に応じているが、認知症ゆえに出る言葉に動かされないようにスタッフ間で申し合わせていると同時にご本人にゆっくり接して心を開いて頂けるよう情報交換しあっている。	個別ケアを実践するために、利用者の思いや意向を聞き取って介護計画に反映させようとの意識はある。しかし、利用者の真の思いを引き出すには至っていない。	意向の表出ができる利用者、まずは一人に焦点を絞り、日々の支援の中から思いや意向を引き出す取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の話や市役所の資料、ご本人の話、持って来られたものなど、話題にしてアセスメントの一助にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りを参考にしながら、また実際話をして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場に入って実際触れてみて利用者様を知ることにも努め職員たちからも生の情報を得ているし、何気ない利用者さんの一言を探している。	利用者や家族の意見を聞き取って介護計画を作成しているが、ADL中心のプランとなっており、利用者の思いや意向を計画に結びつけた例は少ない。	目標達成計画にも取り上げ、「個別ケア」の実践のために、介護記録の様式を変更して取り組んでいる。成果となって現れることを楽しみに待ちたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の簡素化をこの4月からしているがそれでも記録がおいついていない現状であるが、外国人スタッフは懸命に日本語を覚えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに柔軟に応じていくのが良いが、できることから始め、社会資源などスタッフ間で方法を考えていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケアセンターとハウスでの合同のレクリエーションをしたり、行事を計画したり、ボランティアを探している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設のクリニックが基本となるが専門外のことには利用者さまのかかりつけ医に受診におつれしている。	隣接した土地に運営母体のクリニックがあり、全ての利用者がかかりつけ医として受診している。訪問調査当日も、車いすの利用者が職員に付き添われて通院する姿があった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様異常の時はすぐにナースやドクターに報告し処置などしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護情報を提出するとともにできるだけ見舞い、情報を得ておき、退院時の診療情報はドクターを通してこちらに提供してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用時にご本人、特にご家族に救命救急に関しての同意書を取り、ドクターの指示を頂きながらチームを組んで支援している。	利用開始時に、利用者・家族にホームとしての支援の限界を説明して同意を得ている。終末期や医療行為が必要な場合には、医師や家族と共に、次の受け入れ先(病院、特養等)を決定するための調整を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まず併設のクリニックのドクターに報告し、現場に居る職員(ナース、ヘルパー)が救急処置をする。ミーティングで予想されることについて話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いの下通報訓練、消火器取り扱い訓練実施し、3月には施設で防災訓練を実施し10月には地域の防災訓練に参加した。	小規模多機能事業所との合同防災訓練を実施しており、利用者全員のヘルメットも用意されている。市社協からの要請があり、大規模災害時の避難所としての登録を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様についての守秘情報はスタッフ全員心がけており、利用者様間のコミュニケーション時にふれてはいけない情報や差別語などがないように対応に工夫をしている。	利用者間の相性もあり、気の合わない利用者通しが摩擦を起こさないよう、テーブルの配置や席次の配置に配慮している。外国籍の職員についても、言葉づかいは適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろいろな話題やレクを提供してそれぞれ無理のない様に自分を出して頂けるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースには中々併せられない面が有り、最大公約数的な部分を取り、スタッフが一緒に過ごし、他のスタッフが個人レクについたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容、髭そりなど会話を交えてさせていただいたり、ご自分でされる方はできない部分をさせてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	サツマイモや栗、カボチャなどたくさんもらった時などアイデアを利用者に教えてもらったり希望を聞いたりして工夫している。	主として外食業者の配食サービスを利用しており、職員も同じ食事を摂っている。誕生会では、お菓子作りの得意な職員が、ケーキを作って利用者を喜ばせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に摂取量や栄養補助食品が必要な方、水分が必要な方などミーティング時に全員で確認しチェックしてケアにあたっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに全員につくことはできないが自分でできない方からスタッフがついてしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員ではないが排泄表をつくってパターンを掴むようにしたり、また褥瘡予防にも役立っている。必要最小限のリハビリパンツ対応をして時間を見てトイレ誘導をしている。	運営母体が医療法人であり、医療面でも手厚い支援をしている。褥瘡予防を排泄支援の延長ととらえ、利用開始時に褥瘡のあった利用者を完治させ、家族からも感謝されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	副食は外部委託だがおやつ時に水分、繊維系の物を工夫している。ひどい便秘にはナースとドクターが対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順は公平になるようにリーダーが1週間ごとに一番風呂を決めている。また入浴拒否のある方にはチャンスを掴んで午前に行っていることもある。	基本は週3回の入浴であり、一般浴槽での対応が難しい3名の利用者は、隣接の小規模多機能事業所の機械浴槽を使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共同の生活の為に21時消灯、テレビのスイッチを切るようお願いしているがドラマによっては多少柔軟性を持たせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の中には薬の内容を知っておられる方もある。それ以外の方は服薬確認をこちらでしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症の方ばかりなのでその日その日で興味が変わることもあるがスタッフ間で情報を共有して本当はどうして欲しいのかをみんなで考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事としては普段行けない所にお連れしようと計画を練っている。出掛けられない方も何名かおられるのでケアセンターと合同で過ごすことが多い。	平均介護度が3.8と重度化が進み、外出することが不可能な利用者もいる。外出を希望する利用者だけではあるが、入浴支援の無い、火、木、土曜日には、近隣を散歩することが日課となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的にこちらで預かっていて床屋さん美容院など必要な時に支払ってもらう。ケータイは家族との話し合いで持っていたりすることも。原則は禁止である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	たまに電話を使われることもあるが手紙はこれからの課題である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の飾りつけはシンプルで必要最小限にしている。利用者様の誕生日表は皆様の関心を引いている。畳のところは洗濯ものたたみに利用者様たちが使っておしゃべりしている。	利用者が手伝う機会が減ってしまったが、ホールの壁面には共同で制作したと思われる季節感のある飾りつけが施されていた。地域の写真家から寄贈された写真(「祈り」)が掲示されており、訪れる者の心を癒してくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では朝皆様が新聞を広げておしゃべりをされる事もある。テレビの好きな方はテレビの近くの席が自席となる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の服やかばん写真など持ってきて置いておられ、訪室するスタッフに説明を何度もされる。	各居室に洗面台が設置してあり、洗顔や口腔ケアにも有効に使用されている。使い慣れた籐の筆筒や衣装箱、えもん掛け等が持ち込まれた居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやテーブルなどあるもので利用者様が自分で移動しやすいように利用している。トイレはほとんどの人が早くに分かっていて下さる。		

目標達成計画

作成日: 平成 25年 1 月 19 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23～27	医療との連携のみになりがちで生活面の真の声を引き出すことが難しい	利用者様と職員との馴染みの関係を深めていく	利用者様との馴染みの関係を作ろうとする中での本音のつぶやき願いなどアンテナを張り、気があったら職員同士で共有していくと共にプランにつなげる	6ヶ月
2	11	外国籍の職員が増える傾向にあり、文化常識のギャップで申し送りの把握がしきれていない	外国籍の職員には特に大事な申し送りが伝わるよう手立てを考える	まず大切な申し送りをタイムカードのそばのボードに記し、繰り返し説明するとともに、通訳のスタッフや日本人スタッフが現場で説明する	6ヶ月
3	13	認知症という病気の理解度がまちまちで、その都度の対応で、対応の根拠が把握しきれていない	認知症に対する統一ケアの必要性が職員に理解できる	言語の問題が大きい認知症を正しく理解すれば職員の混乱を防げることを管理職と一緒に考えていき、現場で一緒に対応することで仕事として馴染んでいけるようにする	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。